



明日からできる 園バスの安全管理

／ 現場の工夫とアイデア ／



子どもたちの安全を守る



送迎バス置き去り事故を防ぐための優れた取り組みから学ぶ

全国には4万台以上の子どもを幼稚園、保育園、こども園などに送迎するバス（以下「園バス」とします）が走っています。毎日、朝と夕方、何万人もの子どもたちが安全に通園できているのは、保育園・幼稚園の先生方の真摯な努力があってのことです。

各園では、子どもたちの安全を守るために様々な工夫を重ね、大切に育んできた取り組みがあります。しかし、そうした優れた実践は、なかなか他の園には伝わりにくいものです。

このパンフレットは、園バスに子どもを置き去りにする事故を防止するために実践されている優れた安全対策を集め、広く共有することを目指しています。ここに集められた事例の1つ1つには、子どもたちの命を守りたいという現場の強い思いが込められています。

どうか皆様の園でも、これらの実践例を参考に、それぞれの実情に合わせた形で活用していただければ幸いです。子どもたちの安全を守る取り組みを、共に支え合っていきましょう。

調査概要

- 関西地域の105の幼稚園・保育園・こども園に対して、置き去り事故防止を始めとする園バス運用上の安全対策について、ヒアリング調査を行いました。収集された事例の中から、特に優れていると思われる取り組みを分析し、安全管理の専門家による評価を加えてまとめました。





園バスの安全確認 - 具体的な事例の前に

置き去り防止の優れた取り組みをご紹介します前に、多くの園で実践されている基本的な安全確認の取り組みについてお伝えします。これらは子どもたちの安全な通園を支える重要な土台となるものです。まずは、皆様の園での取り組み状況を確認してみましょう。



1. 複数人での確認

- ☒ ドライバーと添乗スタッフが役割分担を明確にし、声を掛け合いながら確認
- ☒ 降車後は必ず2名以上で車内の隅々まで物理的に確認
- ☒ 確認結果を「〇〇人全員降車確認しました」など具体的に報告

保護責任は保護者、添乗者、職員と次々に移るため、引継ぎ時の確認が重要です。

責任の所在を明確にすることで、置き去り事故の防止につながります。

2. 正確な人数把握

- ☒ 朝の受け入れ時に、その日の欠席・遅刻情報を職員間で共有
- ☒ 乗車時と降車時で園児数を照合し、変更があれば理由を確認
- ☒ 予定外の変更（急な欠席など）は複数の職員で情報を共有

3. 見守り体制の工夫

- ☒ 毎朝のミーティングで当日の送迎担当と役割を明確に伝達
- ☒ 定期的な研修で確認手順を見直し、職員の意識を維持
- ☒ ヒヤリハット事例を共有し、対策を全職員で検討

国土交通省が義務付けた置き去り防止装置について、調査園での設置率は100%でした。

各園の設置方式の内訳 降車時確認式：83% / 自動検知式：7% / 不明：10%



ついでにチェック

日常業務との融合による効率的な安全確認



取り残し確認は確実に実施すべき重要な業務ですが、独立した作業として行くと負担が大きくなります。そこで、いくつかの園では既存の業務フローに確認作業を組み込む工夫を行っています。



メリット

業務効率の最適化

既存の作業動線に安全確認を組み込むことで、追加の労力を最小限に抑えながら、確実な確認を実現できます。

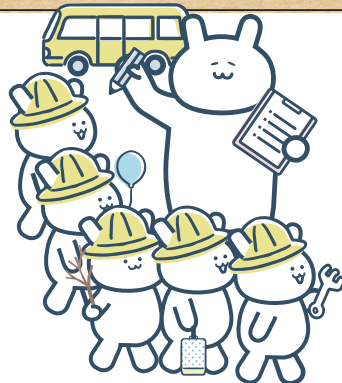
持続可能な実施体制

日常業務の一部として定着させることで、長期的な継続が可能になります。複数の業務と連動させることで、確認漏れのリスクを低減できます。

専門家のコメントと注意点



- 降車時の確認だけでなく、保育室での人数確認など、降車後の確認も併せて実施することが重要です。
- 確認内容は具体的に示すことで、より効果的な実践が期待できます。特に「誰が」「いつ」「何を」確認するかを明確にしましょう。



※園バスの運行に携わる 100 名の方々が選んだランキングです



座席の工夫

視覚的な確認体制の構築



園バスの安全性を高めるため、座席配置を工夫することで確認作業の効率と確実性を向上させている事例を紹介します。

効果的な座席管理の実践例

固定座席制の導入

- 園児ごとに決まった座席を設定
- 座席表に写真を添付し、視覚的に確認
- 欠席情報と座席状況を連動させて管理

降車順を考慮した配置

- 降車順に応じた座席割り当て
- 出入口付近の見通しを確保
- 職員の動線に沿った配置

メリット

確認作業の効率化

座席が固定されることで、乗車・降車時の確認がスムーズになります。

ミス防止効果の向上

視覚的な確認が容易になり、見落としのリスクが低減します。

園児の安心感醸成

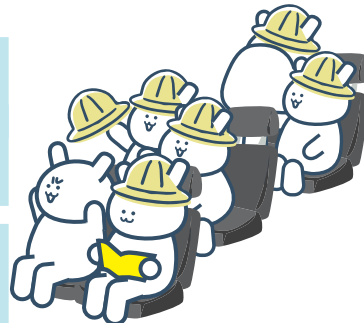
決まった席があることで、園児自身も落ち着いて過ごせます。

専門家のコメントと注意点



座席配置は、各園の運行形態や園児の特性に応じて柔軟に調整することが重要です。形式的な運用は避け、実態に即した工夫が必要です。

職員間で定期的に運用状況を確認し、必要に応じて見直しを行うことで、より効果的な座席管理が実現できます。



※園バスの運行に携わる 100 名の方々が選んだランキングです



ICT システムの活用

情報共有による確実な安全管理

ICT システムは、園バスの安全管理において大きな効果を発揮しています。システムの導入により、保護者との連絡から乗降確認まで一元的な管理が実現します。保護者はスマートフォンのアプリを通じて欠席・遅刻の連絡を送信でき、その情報は職員間で即座に共有されます。

バスでの送迎時には、タブレット端末を使用して乗降管理を行います。園児の写真が利用できるシステムならスムーズな確認が可能となり、チェック結果は自動的に記録されます。また、確認漏れを防止するアラート機能も備わっており、万が一の見落としも防止できます。

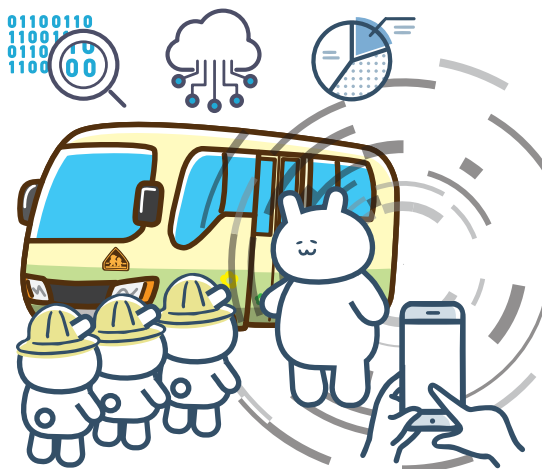
メリット

- 情報伝達の正確性向上
- 記録の自動保存・管理
- 確認作業の効率化
- ヒューマンエラーの防止

専門家のコメントと注意点

システムは補助的なツールとして活用し、園児との直接的なコミュニケーションを大切にしましょう。

導入時は職員の習熟度や園の規模を考慮し、実態に合った運用方法を検討することが重要です。



一気にデジタル化するのではなく、段階的な導入を検討しましょう

導入後のランニングコストや保守費用も含めた長期的な視点での検討が重要です

補足情報

各社からも様々な ICT システムが提供されています。各システムで機能や使い勝手が異なりますので、複数のシステムを比較検討することをお勧めします。厚生労働省の導入ハンドブックが参考になります。

保育分野における ICT の導入効果及び普及促進方策に関する調査研究➡





アナログチェックリストの工夫

シンプルで確実な安全確認の実現



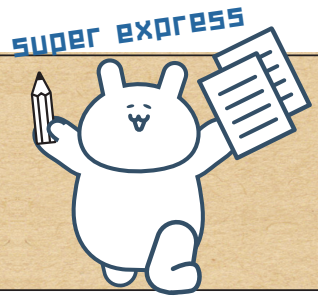
園バスの安全管理において、アナログチェックリストは直感的で確実な方法として多くの園で活用されています。主に「名簿型」と「手順型」の2種類があり、それぞれの特徴を活かした運用が行われています。

名簿型チェックリストは、園児の名前が印刷された一覧表形式で、乗車時と降車時に個々の園児を確認します。バス停ごとの乗降予定を色分けして記載するなど、視認性を高める工夫も効果的です。

手順型チェックリストは、確認作業を時系列で示したもので、「いつ」「誰が」「何を」確認するかを明確にします。バス停ごとの確認事項や最終確認の手順を具体的に記載することで、新人職員でも確実な実施が可能です。

メリット

- 直感的な操作で確実な確認が可能
- システム障害の影響を受けない
- 導入コストが低く、すぐに開始できる
- 園の実情に合わせた柔軟な運用が可能



専門家のコメントと注意点



- チェックリストは具体的な確認項目を明記することが重要です。
- 職員の負担を考慮し、持続可能な運用を設計しましょう。

- 定期的な振り返りで、必要に応じて項目を更新することが大切です。

補足情報

こども家庭庁では「こどものバス送迎・安全徹底マニュアル」において、手順型チェックリストのテンプレートを提供しています。各園の状況に応じて項目をカスタマイズして活用することができます。

https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/effort/anzen_kanri/

QRコードで見る



※園バスの運行に携わる100名の方々が選んだランキングです



選択の指針

園の状況に適した安全確認方法



各園の状況に応じて、デジタルツールとアナログチェックリストのいずれか、または両方を選択することができます。以下の特徴を参考に、最適な方法を検討してください。

比較表

項目	デジタルツール	アナログチェックリスト
 初期導入	導入費用と研修が必要	すぐに開始可能
 情報共有	リアルタイムで可能	物理的な受け渡しが必要
 操作性	習熟が必要	直感的に使用可能
 データ管理	自動保存・検索が容易	物理的な保管が必要
 カスタマイズ	システムの仕様に依存	自由に変更可能
 緊急時対応	システム障害の可能性	安定して使用可能

園の特性による 選択のポイント



デジタルツールが適している園

園児数が多く、情報共有の負担が大きい
ICT 活用に積極的な職員が多い
他のデジタル管理システムと連携したい



アナログ方式が適している園

小規模で職員間の連携が密
速やかな導入を希望
設備投資を抑えたい

併用のすすめ

多くの園では、デジタルとアナログの
両方の利点を活かした併用を行っています。

例えば・・・

日常的な
確認は
デジタルで

緊急時の
バックアップは
アナログで

新人研修時は
両方を使用

安全確認の基本姿勢

園児の安全確認では、チェックリストやシステムに頼るだけでなく、顔と名前を確認し、声をかけることが基本です。これは安全確認であると同時に、園児とのコミュニケーションの機会にもなります。ただし、大規模園ではこうした個別対応に課題が残ることもあり、園の規模に応じた工夫が必要です。

重要なポイント

**導入時は職員の教育・研修を
十分に行うことが不可欠です**

どちらの方法を選択する場合も、以下の点に注意が必要です

Caution



確認手順の具体化

Caution



職員への十分な説明

Caution



定期的な運用方法の見直し



園児同士の見守り

思いやりの心を育む安全確認



園児同士が互いを気遣い、声を掛け合う関係づくりは、バスの安全確認において重要な役割を果たします。日常的な保育活動の中で、友だちを思いやる心を育むことで、自然な形での見守りが実現できます。

特に効果が見られるのは、眠くなりがちな帰りのバスでの声かけです。眠っている友だちを優しく起こしたり、具合の悪そうな友だちに声をかけたりする姿が報告されています。このような思いやりの行動は、置き去り防止だけでなく、子どもたちの社会性を育む機会にもなっています。

メリット

- 園児の思いやりの心が育つ
- 複数の目による見守りで安全性が向上
- 子ども同士の自然な関係づくりにつながる

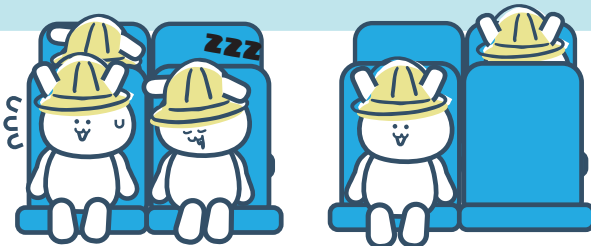


専門家のコメントと注意点



子どもたちを巻き込んだ活動は、ルール以上の効果を生む可能性があります。園児同士の見守りは有効ですが、年齢や状況によっては逆効果となることがあります。例えば、眠っている友だちを気遣い、自分も降りない場合も考えられるため、最終的な確認は職員が行う必要があります。

園児の活動はあくまで補助的な位置づけとし、過度な負担をかけないようにしましょう



※園バスの運行に携わる 100 名の方々が選んだランキングです



報告しやすい職場づくり

安全な組織文化の醸成



置き去り防止には、職員が気づきや懸念を自由に共有できる環境が重要です。いくつかの園では、些細なミスも報告しやすい雰囲気づくりに成功し、事故防止につながっています。

特に効果的なのは、園長や主任が日頃から笑顔で接し、若手職員にも積極的に声をかける姿勢です。「どんな小さなことでも教えてね」という言葉かけを意識的に行い、報告のハードルを下げる工夫をしています。また、ヒヤリハット事例を「報告してくれてありがとう」と肯定的に受け止め、改善のきっかけとして活用している園も見られます。定期的な職員間の対話の機会を設け、気づきを共有する場を確保することも効果的です。

メリット

- 問題の早期発見・対応が可能に
- 職員の安全意識が向上
- 組織全体の学びにつながる
- 若手職員も意見を出しやすい環境が実現

専門家のコメントと注意点



全員が気兼ねなく意見を言えたり、失敗を認められる環境づくりが、効果的な安全対策の基盤となります。

報告された内容は、責めることなく改善に活かすことが重要です。定期的な振り返りの機会を設けることで、継続的な改善が可能になります。

※園バスの運行に携わる 100 名の方々が選んだランキングです



おわりに

園バスを運行する全国の園では、日々、子どもたちの安全を守るための工夫と努力が重ねられています。これらの取り組みは、必ずしも目立つものではありませんが、子どもたちの安全な通園を支える大切な基盤となっています。

このパンフレットは、現場の知恵と工夫に光を当て、共有することで、子どもたちの安全を守るとともに、日々尽力されている皆様に「安全のために頑張ってよかった」「これからも頑張ろう」と感じていただきたいという思いから作成しました。

『今、預かっている子どもは誰で、どこにいるのか』を即答できる体制を整えることが、安全管理の基本となります。

安全は、「失敗の原因」を探すだけでなく、「うまくいっていること」を見つめ、共有することでも実現できます。優れた取り組みを伝え合い、安全な行動を増やすことで、より良い保育環境が築かれていくはずです。

このパンフレットが、皆様の園での取り組みの一助となれば幸いです。
また、子どもたちの笑顔のために 日々尽力されている皆様に、心からの敬意と感謝を表したいと思います。

なお、このパンフレットは優れた取り組みの事例を紹介していますが、これらの取り組みだけで安全が完全に確保できるものではありません。より確実な安全確保のためには、なるべく多くの対策を組み合わせ、幾重にも備えることが大切です。





<https://kids-safety.org/>

WEB でもご覧いただけます



調査研究実施者・パンフレット作成者

近畿大学 島崎敢
関西大学 岡本満喜子
電気通信大学 石垣陽
駿河台大学 館秀典

評価コメントを行った有識者

立教大学（名誉教授） 芳賀繁
静岡英和学院大学 重森雅嘉
関西大学 河野和宏

予算をくれた組織

JR 西日本あんしん社会財団

デザイン

株式会社TOBBY LABO



「この冊子の感想、ご意見、ご要望、あなたの園での
グッドプラクティスなどを是非お寄せください。」

<https://forms.gle/or6q9vXjWJFwR26cA>

